

平成25年度後期
活力ある学校づくりをめざして
～「前期・後期」学校評価のアンケート結果から、
今年度の取組の評価と課題について～

平成26年3月6日
京都市立紫竹小学校

1. 「活力ある学校づくり」のためのアンケート調査について

(1) 調査結果

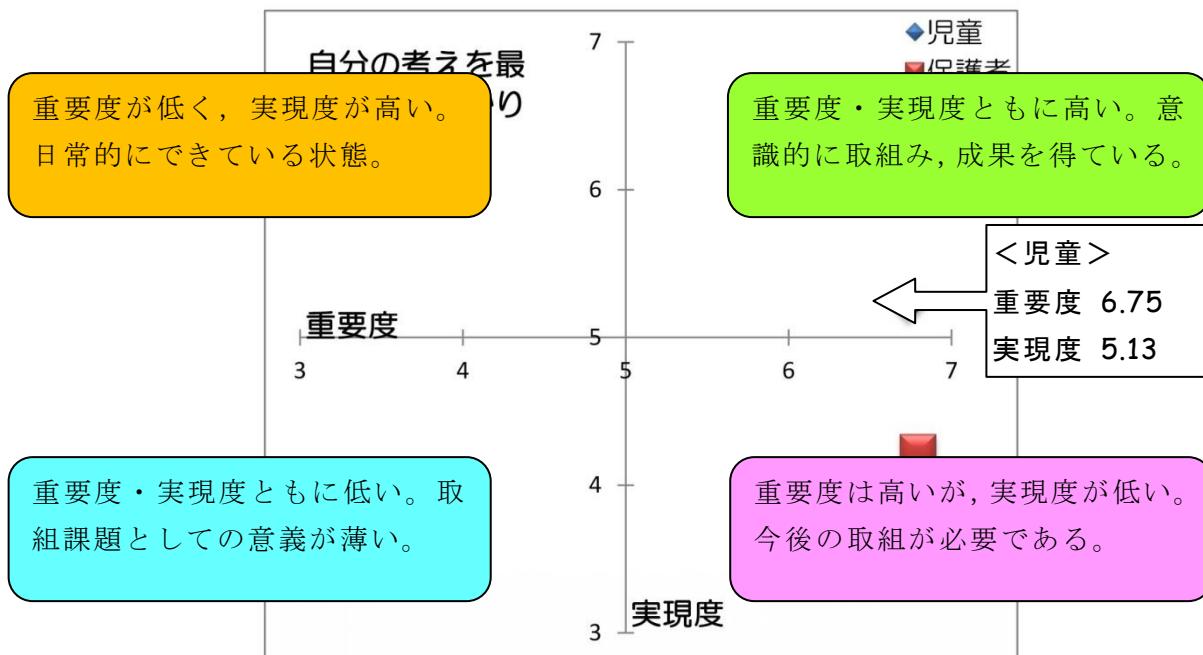
活力ある学校づくりをめざし、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「紫竹の取組」の4観点について、本校児童、保護者及び教職員に意識調査を実施しました。

また、調査対象については全校児童とその保護者及び本校教職員としました。保護者については、各在籍学級単位で回答を得ました。児童及び教職員は全員が回答し、保護者については86%の回答を得ることができました。

(2) 調査結果の見方

意識調査の結果については、児童、保護者及び教職員ごとに集計を行いました。集計については、回答尺度を低位なものから順に1・3・5・7ポイントで換算し、重要度・実現度とともに平均値を算出しました。

その次に、質問項目に対する重要度と実現度の度合い（平均値）ともに相互関係を明らかにするために、座標軸上に2つの平均値の接点を表示しました。



児童・保護者・教職員それぞれの意識の度合いから因果関係を分析するだけでなく、前期と後期の三者間の意識差や相互関係などについて考察し、「活力ある学校づくり」をめざした今年度の取組の評価と課題について示しました。

また、結果につきましては、学校ホームページでも公開いたします。

2. 各調査項目の結果と今年度の取組の評価と課題について

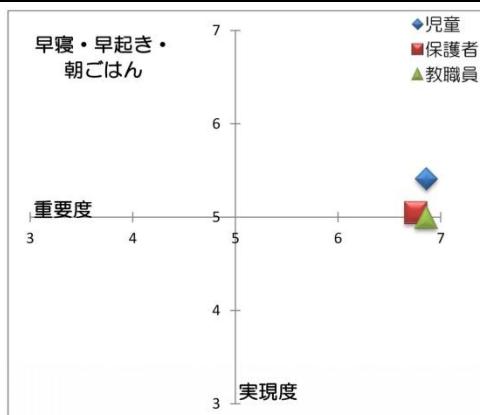
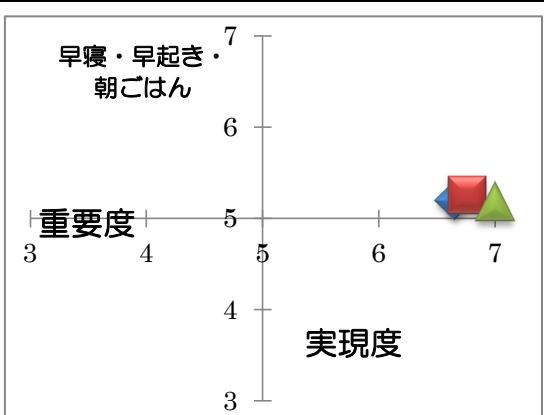
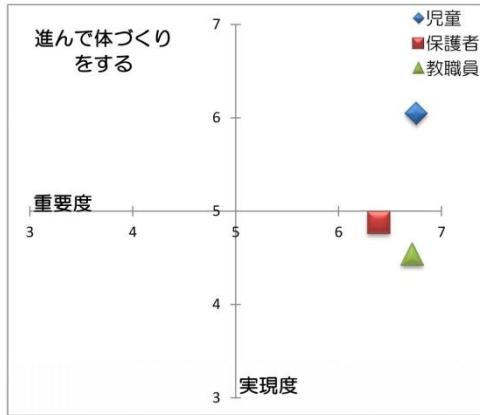
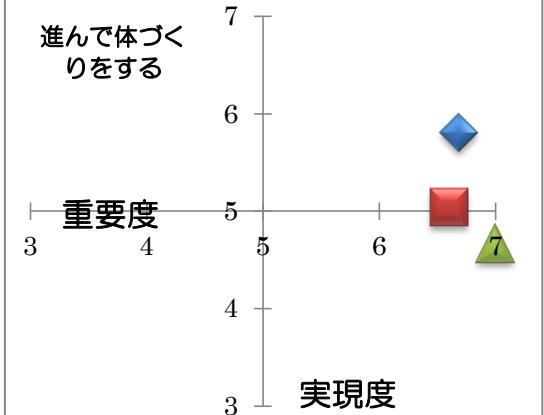
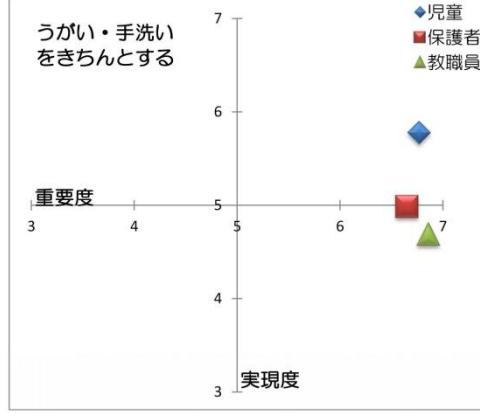
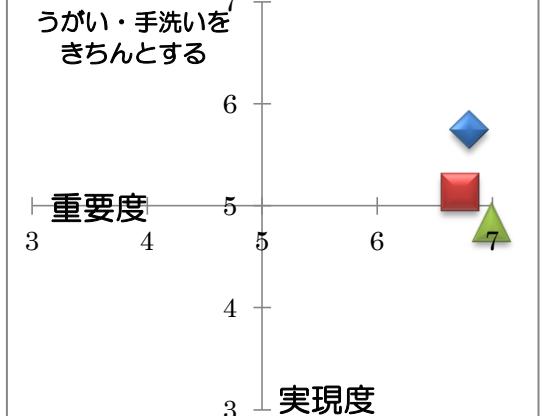
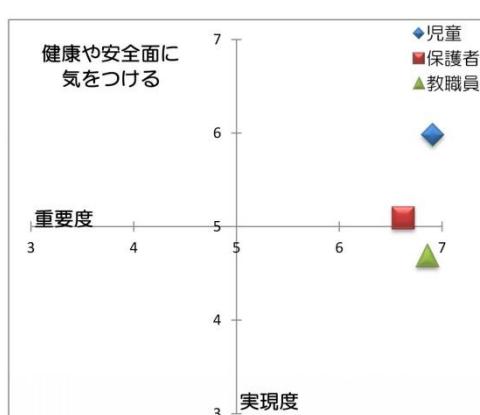
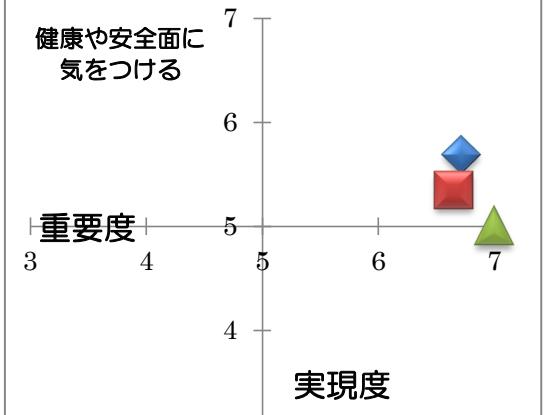
(1) 確かな学力の向上にむけて

意識調査結果 前期	意識調査結果 後期	評価と課題
<p>人の話を最後まで しっかり聞く</p>	<p>人の話を最後 までしっかり 聞く</p>	<p>学校生活のあらゆる場で、人の話をしっかり聞き、自分の考えをしっかり話すよう指導を続けてきた。その結果保護者の思う実現度が上がっていることは評価される一方、教職員の実現度が下がっていることが残念である。話し合いの質を高めるために『法教育』の視点を取り入れ話し合い活動に力を入れてきたにもかかわらず教師側が思う実現度が下がっていることを課題に挙げ、教師が意識的に児童に分かりやすく話し合いの視点を伝え、教職員と児童自身が変容を認められるような話し合いを次年度に取組んでいきたい。</p>
<p>自分の考えを最 後までしっかり 話す</p>	<p>自分の考えを 最後までしっ かり話す</p>	<p>また、授業が分かりやすい項目では、教職員の授業に対する評価は謙虚なものであるが、前期と比較すると若干評価が高くなっている。教科学習を研究に取り上げ取り組んだ成果であると思われる。来年度もまず分かりやすい授業の展開に心がけ、教師側の評価も上げられるよう努力していきたい。</p>
<p>根気強く、最後 までやりぬく</p>	<p>根気強く最後 までやりぬく</p>	<p>「根気強く最後までやりぬくこと」について若干教職員の評価が上がっているのは1年間の取組の成果であり、教職員が粘り強く指導した結果であると考える。来年度も授業を通して粘り強く学習に向かわせたい。</p>
<p>授業がわかり やすい</p>	<p>授業がわかり やすい</p>	

(2) 豊かな心の育成にむけて

意識調査結果前期	意識調査結果後期	成果と課題
<p>一人一人の違いを理解する</p>	<p>一人一人の違いを理解する</p>	<p>学級内での人間関係の問題は、「一人一人の違いを理解する」ことができないために生じているケースが多くなったように思われる。「人権を大切にする」「自分も友だちも大切にする」ことは児童、保護者、教職員の重要度が高いことを考えると、指導する際の重点は『友だちと仲良くする』ように指導するだけではなく、『一人一人違う個性をもった人間である』ことを児童・保護者に理解を求める、そのうえで学級指導、人権指導をすることが大切であると考える。</p>
<p>自分も友だちも大切にする</p>	<p>自分も友だちも大切にする</p>	<p>自分で考え自分で行動することに対する評価は重要度が高いにもかかわらず前期、後期共に実現度が低い。特に教職員の実現度が低いのでこの点を改善する必要を感じる。教職員は少人数を指導しているので、児童に目が行き届くという利点がある半面、児童に考えさせる時間を与えず短時間で結果を求めていることが往々にあるように思われる。少し時間をかけ児童が自分で考える時間を保証し、たくましさを育てる取組をしていく必要を強く感じる。</p>
<p>人権を大切にする</p>	<p>人権を大切にする</p>	
<p>自分で考え、自分で行動する</p>	<p>自分で考え自分で行動する</p>	

(3) 健やかな体の育成にむけて

意識調査結果前期	意識調査結果後期	成果と課題
 <p>早寝・早起き・朝ごはん</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>児童 (青): 重要度約6.5, 実現度約6.5 保護者 (赤): 重要度約6.5, 実現度約6.5 教職員 (緑): 重要度約6.5, 実現度約6.5</p>	 <p>早寝・早起き・朝ごはん</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>児童 (青): 重要度約6.5, 実現度約5.5 保護者 (赤): 重要度約6.5, 実現度約5.5 教職員 (緑): 重要度約6.5, 実現度約5.5</p>	<p>三者の重要度が一致している項目が「早寝・早起き・朝ごはん」である。本校において欠席児童や遅刻児童が少ないという良き環境はこの意識の高さによるものであると考える。一方進んで体づくりをする項目について、前期よりも児童の実現度が下がっていることが気になります。休み時間に学級の児童が全員遊びをして運動場で遊ぶ等外遊びを意識的に行うことで習慣づけ児童が進んで体づくりに取り組む環境を作りたい。</p>
 <p>進んで体づくりをする</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>児童 (青): 重要度約6.0, 実現度約5.0 保護者 (赤): 重要度約5.5, 実現度約5.0 教職員 (緑): 重要度約4.5, 実現度約4.5</p>	 <p>進んで体づくりをする</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>児童 (青): 重要度約6.0, 実現度約5.0 保護者 (赤): 重要度約5.5, 実現度約5.0 教職員 (緑): 重要度約5.5, 実現度約5.5</p>	<p>また、健康や安全面に気を付けるという項目で児童の実現度が下がっている。避難訓練を複数回行うなど自分の命を守るためにできることを考えられる子どもに育てようとした結果、訓練時には冷静に行動できるようになっているが、訓練時以外の状態が良くないのではないかと考える。例えば廊下を走る児童がいて、掃除時間にホウキをもって遊んでいる児童もいる。教職員が見ている時には気を付けていても見ていないと自分の行動を自制できずには度をこした行動をする児童も少なくない。日常の生活においても自身の身の安全と友だちの身の安全を守れる集団へと育てたい。</p>
 <p>うがい・手洗いをきちんととする</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>児童 (青): 重要度約6.0, 実現度約5.0 保護者 (赤): 重要度約5.5, 実現度約5.0 教職員 (緑): 重要度約4.5, 実現度約4.5</p>	 <p>うがい・手洗いをきちんととする</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>児童 (青): 重要度約6.0, 実現度約5.0 保護者 (赤): 重要度約5.5, 実現度約5.0 教職員 (緑): 重要度約5.5, 実現度約5.5</p>	<p>また、健康や安全面に気を付けるという項目で児童の実現度が下がっている。避難訓練を複数回行うなど自分の命を守るためにできることを考えられる子どもに育てようとした結果、訓練時には冷静に行動できるようになっているが、訓練時以外の状態が良くないのではないかと考える。例えば廊下を走る児童がいて、掃除時間にホウキをもって遊んでいる児童もいる。教職員が見ている時には気を付けていても見ていないと自分の行動を自制できずには度をこした行動をする児童も少くない。日常の生活においても自身の身の安全と友だちの身の安全を守れる集団へと育てたい。</p>
 <p>健康や安全面に気をつける</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>児童 (青): 重要度約6.0, 実現度約5.0 保護者 (赤): 重要度約5.5, 実現度約5.0 教職員 (緑): 重要度約4.5, 実現度約4.5</p>	 <p>健康や安全面に気をつける</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>児童 (青): 重要度約6.0, 実現度約5.0 保護者 (赤): 重要度約5.5, 実現度約5.0 教職員 (緑): 重要度約5.5, 実現度約5.5</p>	<p>また、健康や安全面に気を付けるという項目で児童の実現度が下がっている。避難訓練を複数回行うなど自分の命を守るためにできることを考えられる子どもに育てようとした結果、訓練時には冷静に行動できるようになっているが、訓練時以外の状態が良くないのではないかと考える。例えば廊下を走る児童がいて、掃除時間にホウキをもって遊んでいる児童もいる。教職員が見ている時には気を付けていても見ていないと自分の行動を自制できずには度をこした行動をする児童も少くない。日常の生活においても自身の身の安全と友だちの身の安全を守れる集団へと育てたい。</p>

(4) 紫竹の取組について

意識調査結果前期	意識調査結果後期	評価と課題																
<p>元気にあいさつをする</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>Legend: 児童 (Blue Diamond), 保護者 (Red Square), 教職員 (Green Triangle)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実現度</th> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>6.0</td> <td>5.5</td> <td>4.5</td> </tr> </tbody> </table>	実現度	児童	保護者	教職員	6	6.0	5.5	4.5	<p>元気にあいさつをする</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>Legend: 児童 (Blue Diamond), 保護者 (Red Square), 教職員 (Green Triangle)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実現度</th> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>6.5</td> <td>5.5</td> <td>5.0</td> </tr> </tbody> </table>	実現度	児童	保護者	教職員	6	6.5	5.5	5.0	<p>挨拶に関しては三者共に重要度が高い。挨拶をしっかりすることが大切であると考えていることが分かる。一方実現度は三者が異なる評価をしていることから、三者の理想像が違うと考える。保護者や教職員は自分から挨拶する姿を望み、児童は挨拶を返すことでできていると考えているようである。あいさつの意味について伝え指導する必要がある。</p>
実現度	児童	保護者	教職員															
6	6.0	5.5	4.5															
実現度	児童	保護者	教職員															
6	6.5	5.5	5.0															
<p>学校や社会のきまりを守る</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>Legend: 児童 (Blue Diamond), 保護者 (Red Square), 教職員 (Green Triangle)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実現度</th> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>5.5</td> <td>5.0</td> <td>4.5</td> </tr> </tbody> </table>	実現度	児童	保護者	教職員	6	5.5	5.0	4.5	<p>学校や社会のきまりを守る</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>Legend: 児童 (Blue Diamond), 保護者 (Red Square), 教職員 (Green Triangle)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実現度</th> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>5.5</td> <td>5.5</td> <td>5.0</td> </tr> </tbody> </table>	実現度	児童	保護者	教職員	6	5.5	5.5	5.0	<p>地域の人と一緒に活動することに関して、今年度はほぼ全員の高学年児童が地域行事に参加していたにも関わらず実現度が上がらなかったことに疑問を感じる。児童にとっては地域行事に参加した実感よりも、エコ本舗を立ち上げ学級のみんなで活動した行事と考えたのかもしれない。地域の人と一緒に活動するとはどういうことかを伝える必要を感じる。地域行事を交流の場ととらえ、地域の方々と児童が同じ場所で共に働く活動を積極的に取り入れ、地域に根付いた活動を行うことで地域で児童を育成する取組を行いたい。</p>
実現度	児童	保護者	教職員															
6	5.5	5.0	4.5															
実現度	児童	保護者	教職員															
6	5.5	5.5	5.0															
<p>地域の人と一緒に活動する</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>Legend: 児童 (Blue Diamond), 保護者 (Red Square), 教職員 (Green Triangle)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実現度</th> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>5.5</td> <td>5.0</td> <td>5.5</td> </tr> </tbody> </table>	実現度	児童	保護者	教職員	6	5.5	5.0	5.5	<p>地域の人と一緒に活動する</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>Legend: 児童 (Blue Diamond), 保護者 (Red Square), 教職員 (Green Triangle)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実現度</th> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>4.5</td> <td>5.0</td> <td>6.5</td> </tr> </tbody> </table>	実現度	児童	保護者	教職員	6	4.5	5.0	6.5	<p>地域の人と一緒に活動するとはどういうことかを伝える必要を感じる。地域行事を交流の場ととらえ、地域の方々と児童が同じ場所で共に働く活動を積極的に取り入れ、地域に根付いた活動を行うことで地域で児童を育成する取組を行いたい。</p>
実現度	児童	保護者	教職員															
6	5.5	5.0	5.5															
実現度	児童	保護者	教職員															
6	4.5	5.0	6.5															
<p>学校のことを家の人間に知らせる</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>Legend: 児童 (Blue Diamond), 保護者 (Red Square), 教職員 (Green Triangle)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実現度</th> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>5.5</td> <td>5.0</td> <td>5.5</td> </tr> </tbody> </table>	実現度	児童	保護者	教職員	6	5.5	5.0	5.5	<p>学校のことを家の人間に知らせる</p> <p>重要度 (X-axis, 3 to 7) vs 実現度 (Y-axis, 3 to 7)</p> <p>Legend: 児童 (Blue Diamond), 保護者 (Red Square), 教職員 (Green Triangle)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実現度</th> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>6.0</td> <td>5.5</td> <td>5.0</td> </tr> </tbody> </table>	実現度	児童	保護者	教職員	6	6.0	5.5	5.0	<p>学校のことを家の人間に知らせるとはどういうことかを伝える必要を感じる。地域行事を交流の場ととらえ、地域の方々と児童が同じ場所で共に働く活動を積極的に取り入れ、地域に根付いた活動を行うことで地域で児童を育成する取組を行いたい。</p>
実現度	児童	保護者	教職員															
6	5.5	5.0	5.5															
実現度	児童	保護者	教職員															
6	6.0	5.5	5.0															